



組織破壊を意図した脱退弾劾！ 組織破壊攻撃には断固闘う！

JR総連がJR東海労への除名処分を決定するための臨時大会開催を決定した11月14日、これに合わせるかのように、新幹線地本組合員の森下暢紀、藪秀一、田村浩彰の3人が脱退届を提出した。彼らは「JR総連と共に進む」という理由ならざる理由を述べたが、これは明らかにJR東海労への組織破壊攻撃であり、断じて許すわけにはいかない。森下は、同じ平成採の後輩である名古屋地本松山委員長に以下の通りラインを送った。

お疲れ様です。

今日、東海労の有楽町事務所に脱退届を提出して来ました。

かなり悩みましたが、東海労を脱退することにしました。

今まで、ありがとうございました。

これに対し、松山委員長は、以下の通り返信した。

悩むも何も、最初から決めていた事でしょう。

関西を中心として名古屋でも関連会社での取り組みをやってきたが、この取り組みは以前にも新幹線地本でもやってきたことでしょう。

何故関西が取り組むと否定的になるのか分からない。

総連は休日出勤の闘いを妨害、そしてJS労の闘いも妨害してきた。

私はこんなJR総連とは決別する覚悟だ。直加盟になるのか、新たに作るのかは知らないが、森下さんはどのようなビジョンを持っているのか。直近の発言を考えると、労働運動をやっていく自信を失っているだけと感じる。

それを体良くかけ離れるなんて言っているだけで、本当は単なる「逃げ」だ。逃げるならちゃんと逃げると言うべきだ。

この脱退は単なる裏切りだ。

松山委員長の返信は、まさに核心を突いており、JR東海労組合員の総意でもある。ビジョンなき脱退は、いずれ近いうちに破滅の道へと突き進む。JR東海労は、組織破壊を意図した脱退を断固として弾劾する。